

(イ)主管(室外側の分岐～室内側の第一分岐間):図1のB部

相当馬力	室外容量	液配管サイズ		吸入ガス配管サイズ						吐出ガス配管サイズ						液配管サイズ		吸入ガス配管サイズ						
		φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4	φ28.6	φ31.8	φ34.7	φ38.1	φ44.5	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4	φ28.6	φ31.8
主管	8	224	○*1	○	○*2												○	○						
	10	280	○*1	○	○*2												○	○						
	12	335	○	○													○	○	○	○				
	14	400	○	○													○	○						
	16	450	○	○													○	○						
	18	500	○*1	○	○*2												○	○						
	20	560	○*1	○	○*2												○	○						
	22	615	○*1	○	○*2												○	○						
	24	670	○*1	○	○*2												○	○						
	26	730	○*1	○	○*2												○	○						
	28	775	○*1	○	○*2												○	○						
	30	850	○*1	○	○*2												○	○						

(ウ)室内側の第一分岐～室内側の分岐間:図1のC部

相当馬力	室内容量	液配管サイズ		吸入ガス配管サイズ						吐出ガス配管サイズ						液配管サイズ		吸入ガス配管サイズ						
		φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4	φ28.6	φ31.8	φ34.7	φ38.1	φ44.5	φ9.5	φ12.7	φ15.9	φ19.1	φ22.2	φ25.4	φ28.6	φ31.8
室内分岐～主要の管径 (室内機の組合せ容量)	-70未満	○					○*1	○								○	○							
	70以上～180未満						○	○								○	○							
	180以上～371未溎						○	○								○	○							
	371以上～540未溎						○	○								○	○							
	540以上～700未溎						○	○								○	○							
	700以上						○	○								○	○							
							○	○								○	○							
							○	○								○	○							
							○	○								○	○							
							○	○								○	○							

*1. 配管長が90mを超える場合は使用できません。 *2. 主管長が80mを超える場合は使用できません。
※3. φ15.9の複配管は、室内機能力≤44の場合には10m以内、φ12.7の複配管は、室内機能力≤35の場合には10m以内にしてください。
※4. 室外機上位機の場合は、室外機側の高さ差が40mを超える場合は使用できません。
※5. 下流の室内機接続容量が450以上の場合は使用できません。※6. 下流の室内機接続容量が335以上の場合は使用できません。
※7. 下流の室外機接続容量が450以上の場合は使用できません。※8. 複配管は、10m以内にしてください。
※9. 下流の室外機接続容量が112以上の場合は使用できません。※10. 下流の室内機接続容量が224以上の場合は使用できません。
※11. 総配管は、5m以内にしてください。

(4) 室外側分岐管セット選定

本分岐管セットは室外組合せユニット時に必ず必要となります。(単独ユニットとして使用する場合は必要ありません。)

- お願い
- 室外機との接続管は室外機の接続配管サイズに合わせてください。
- 室内機側への配管(=主管)は主管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“水平分岐”するように設置してください。

(5) 室内側分岐管セット選定

(ア)分岐管セット選定方法

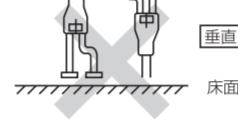
- 分岐管サイズは室内機の接続容量(下流の合計容量)により異なりますので右表より設定ください。
- お願い
- 室内機と室内側分岐管の配管サイズは室内機の接続配管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“水平分岐”又は“垂直分岐”するように設置してください。

室外機	分岐管セット
2台用 (450～850)	DOS-2A-2-R

分岐管の傾きは床面に
対して±15°以内

●水平

●垂直

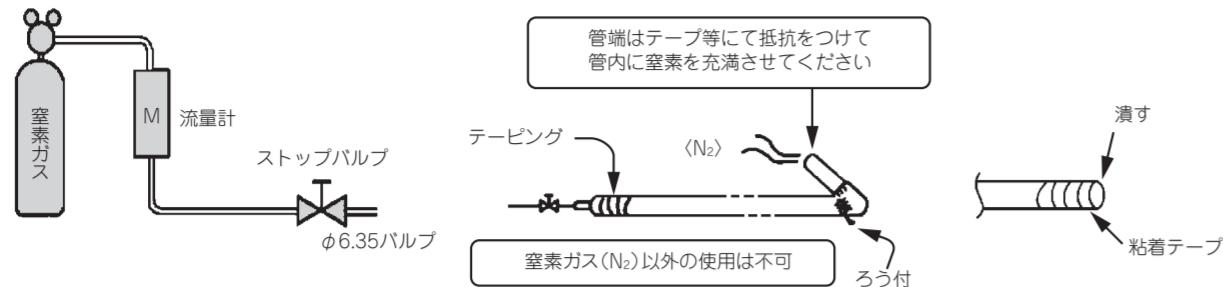


●水平

●垂直

9) 作業手順

- ① 塞素容器に減圧弁と流量計を取り付けてください。
- ② 配管材に導く配管は細い鋼管を使用し、容器側に流量計を取り付けてください。
- ③ 配管材と挿入する塞素用導管のすき間は、外から空気が混入するのを防ぐためにシールしてください。
- ④ 塞素ガスを流すときは、配管側の端部は行き止まりにせず、抵抗を付けて開放してください。
- ⑤ 塞素ガスの流量は0.05 m³/h、又は減圧弁で0.02 MPa (0.2 kgf/cm²) 以下が適当です。
- ⑥ ろう材に適した温度でろう付けしてください。
- ⑦ 操作弁と配管とのろう付けは、弁本体を濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
- ⑧ 作業後、配管がある程度冷えるまで（手でさわれる程度、やけど注意）塞素ガスを流したままにしてください。
- ⑨ ろう付け作業後フラックスは完全に除去してください。



10) ろう付け時の注意事項

- a) 過熱防止 ろう付け加熱により母材の外表面は酸化するが、特に配管内部の加熱酸化によるスケールの生成は冷媒系統のゴミとなり、致命的な悪影響を及ぼすので、ろう付け適正温度でしか必要最小限の加熱面積でろう付けしてください。
- b) 過熱保護 バーナーの火炎によるろう付け部に近い部品の火災による過熱損傷及び変質を防ぐため、金属板による遮蔽保護並びにウエスを水に浸して保護する。又は熱吸収材を使い過熱保護してください。
- c) ろう付け後の冷却 加熱後すぐに水をかけると、配管が劣化する場合もあるため、水をかけないことを推奨します。
- d) ろう付け時の固定 溶接したろう材が凝固する時、動いたり振動が伝わったりすると、ろう付け部に割れが入り漏えいの原因となります。
- e) 酸化防止剤について ろう付け作業の効率化のため、各種酸化防止剤が流逝していますが、その成分は多種多様であり、中には配管を腐食し、HFC 冷媒及び冷凍油などに悪影響を及ぼすことが予想されるものもありますので、注意を要します。

4 - 3. 気密試験・真空引き

(1) 気密試験

① 室外機本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管および室内機の気密試験を室外機側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。

尚、操作弁は必ず閉じたままで実施してください。

② 気密試験は、塞素ガスで機器の設計圧力まで、冷媒配管内を下記の要領で加圧して行うため、図を参考にして器具類を接続してください。

気密試験時に機器を過転しないでください。

加圧ガスには塩素系冷媒及び酸素や可燃ガスなどは絶対に使用しないでください。

操作弁は閉じたままで。絶対に開かないでください。

必ず液管、ガス管、均油管すべて加圧してください。

ろう付け後、配管温度が下がらないうちに加圧すると、冷却後に減圧するので注意してください。

③ 加圧要領は以下の通りで設計圧力ではないで、徐々に行ってください。

(ア) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を約5分以上放置し、圧力の低下のないことを確認ください。

(イ) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認ください。

(ウ) その後、設計圧力(3.24MPa)まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。

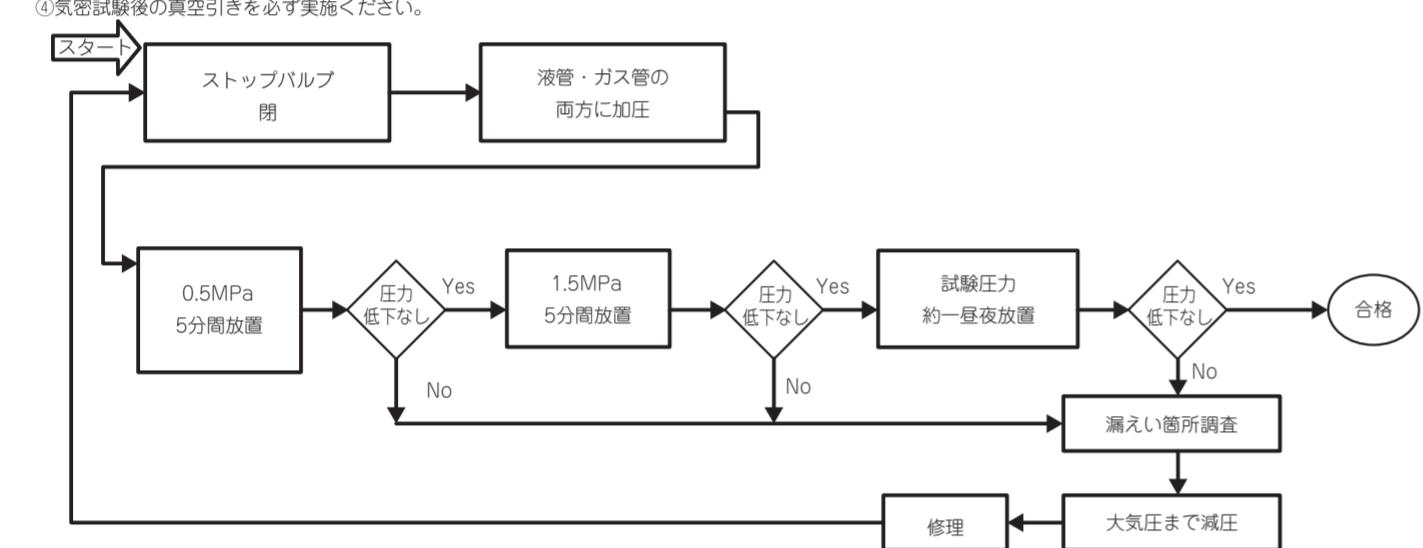
(エ) 規定値で約1日放置し、圧力が低下しない場合は合格です。

この際周囲温度が1℃変化する時圧力が約0.01MPa変化しますので補正を行ってください。

(オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下が認められたものには漏れがあります。

溶接箇所、フレア部等に発泡試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。

④ 気密試験後の真空引きを必ず実施ください。



9

B. 室内外機容量差分チャージ量

室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超える場合には、冷媒量Bを計算し計量封入して下さい。

※室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超えない場合は、B=0(kg)です。

B=(室内ユニットの合計接続容量)-(室外ユニット容量)×0.01

(例) 室外ユニットがFDC400に対し、室内ユニットがFDT140×3台の場合。

B=(140×3)-(400)×0.01=0.2(kg)

C. 基準追加冷媒量

容量別に下表より基準追加冷媒量Cを選んでください。

容量	C(kg)	容量	C(kg)
224	0.0	670	6.4
280	0.0	730	6.4
335	3.2	775	6.4
400	3.2	850	6.4
450	0.0		
500	0.0		
560	0.0		
615	3.2		

●重要

現地の追加封入量上記A+B+Cが下表の値を超える場合には、冷媒系統を分けて下さい。

室外機	追加封入量(kg)
224~670	50
730~850	100

●本機はR410Aのため下記の点にご注意ください。

・異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けしてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒（R22、R407C等）と共に用しないでください。

・冷媒漏れ箇所はポンベ上部に色表示（R410Aは桃色）しておりますので、誤り無きよう十分確認してください。

・チャージシリンドラは絶対使用しないでください。R410Aをシリンドラに移し換える際に冷媒組成が変化する恐れがあります。

・冷媒は液相で封入する必要がありますので、ポンベを倒立させて充てんするか、サイフォン管付の冷媒ポンベから充てんしてください。

●お願い

(ア) 電線は銅以外のものを使用しないでください。

(イ) 電源は、室外機・室内機それぞれ別電源です。

(ウ) 電気ヒーター（別売品）なしにて記載しております。別売の電気ヒーターを組み込む場合は、電源仕様、配線仕様及び配線個数が異なりますので、ご注意ください。

(エ) 同一系統内の室内機の電源は、必ず全て同時にON-OFFになるようにしてください。

(オ) 電源線のアース工事を必ず行ってください。アース線はガス管、水道管、電話や他のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電や誤動作の原因になることがあります。

(カ) 衝撃波不動作遮断装置の取付けが必要です。漏電遮断器が取付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。電源は工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。

(キ) 力率改善用進相コンデンサは絶対に取付けないでください。（力率改善されなければなりませんだけではなく、異常過熱事故を起こします。）

(ク) 電源配線は電線管を使用してください。

(ケ) 漏電では漏電（リコン、信号線）と他の強電配線は同一場所を通過しないように配線してください。電気ノイズの影響を受け誤動作や故障の原因になります。

(コ) 電源配線及び信号線は必ず電源端子台に接続しユニット内の配線固定用クランプで固定ください。

(サ) 配線は配管などと一緒に固定しないように固定してください。

(シ) 配線接続後、電線端子箱内の各電気部品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認したふたを確実に取付けてください。

(ス) 取付け不良等により漏れると誤動作や故障の原因になります。

(ス) 变則V結線（三相200Vと単相100Vの両方を作る結線）となっている変圧器には接続しないでください。もし变則V結線となっている変圧器に多くのエアコンを設置すると本機から発生する高周波の影響により100Vの電子機器が誤動作または故障するおそれがあります。

5. ドレン配管工事

4 - 4. 冷媒の追加封入

（リフレッシュキットを用いた配管洗浄を行う場合は、キットを）

● 液の状態で冷媒を追加封入してください。

● 冷媒の封入は必ずはかりを使用して計算封入してください。

室外機停止状態で、全て封入できない場合は試運転モードで運転し封入してください。（試運転方法は8項を参照ください。）

冷媒不足の状態で長時間運転されると圧縮機の故障の原因となります。（特に運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。）

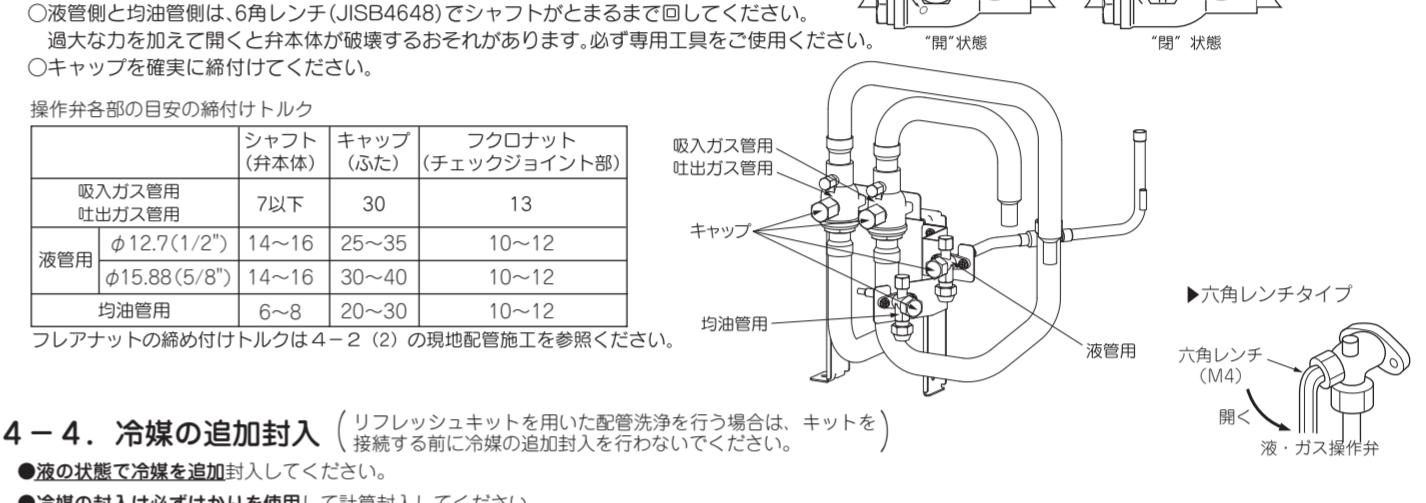
追加冷媒量は下記計算式に従い決定し、その追加した冷媒量をサービスパネル裏面の冷媒量記入銘板に記入してください。

● 液管サイズと長さおよび室内機の容量により追加封入して下さい。小数点2ヶタ目を四捨五入して0.1kg単位で追加冷媒量を決定してください。

追加封入量(kg)=A. 冷媒配管分チャージ量(kg)+(L1×0.37)+(L2×0.26)+(L3×0.18)+(L4×0.12)+(L5×0.059)+(L6×0.022)×1.4

L1:φ22.2の合計長さ(m), L2:φ19.05の合計長さ(m), L3:φ15.88の合計長さ(m), L4:φ12.7の合計長さ(m), L5:φ9.52の合計長さ(m), L6:φ6.35の合計長さ(m), 備考

冷媒配管分チャージ量	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	
冷媒配管分チャージ量	0.37	0.26	0.18	0.12	0.059	0.022																					
A	0.37	0.26	0.18	0.12	0.059	0.022																					
B	0.26	0.18	0.12	0.059	0.022																						
C	0.18	0.12	0.059	0.022																							
D	0.12	0.059	0.022																								
E	0.059	0.022																									
F	0.022																										



4 - 5. 断熱・防露

① 冷媒配管（ガス管、液管）の防露断熱工事を行ってください。

断熱工事は、気密試験の時に漏れを検出可能なように、気密試験実施後に行なってください。

埋設配管部に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能のように点検口などを設けてください。

配管接続部が天井内にある場合にも必ず点検口を設けてください。

防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家の財産等を濡らす原因となることがあります。

6-2. 電源接続要領

(1)配線取出し方法

- 4-2の(1)に示す図の通り配線の取出しは前・右・下・後が可能です。
- 現地配線接続時：外板の貫通穴のハーフブランクをカバーにて切り落としてご使用ください。
- ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出しは下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
- アース線は電源線接続前に接続してください。また、端子台にアース線を接続する時は、アース線を電源線より長くし、アース線にテンションがかかるないようにして下さい。
- 電源は工事が完了するまでご利用いただけません。サービスは電源を切ってから行ってください。
- アース工事は3種（第3種）接地工事に基づき実施してください。
- 電源配線は必ず電源端子台に接続し、操作弁プラケットにあるタイラップでラップしてください。
- 電源端子台への接続は、丸型圧着端子を使用ください。1個の端子に2本接続する場合は、
- 端子が背中合わせになるよう配線ください。また、その場合線径の細い配線が上になるように配線してください。
- 配線は指定の電線を使用して確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定ください。
- 端子のねじ締め付けには、適度なドライバーを使用してください。端子ねじを締めすぎるとねじを破損する可能性があります。
- 電源工事を終了後、電装品箱内の各電気部品の保護タグを抜きや端子外れがないことを確認ください。

(3)室外機電源仕様：三相200V 3~50/60Hz電源

機種	電源用 配線太さ (mm ²)	配線ご長 さ(m)	漏電遮断器 (地絡・過負荷・短絡保護兼用) 太さ(mm ²)	アース線 ネジの呼び M3.5 M8 M8
224	14	53	40A 30m 0.1sec以下	3.5 M8*1
280	14	42	50A 100m 0.1sec以下	3.5 M8*1
335	22	59	50A 100mA 0.1sec以下	3.5 M8*1
400	22	49	60A 100mA 0.1sec以下	3.5 M8*1
450*2	38	65	100A 100mA 0.1sec以下	5.5 M8*1
450	38	81	75A 100mA 0.1sec以下	5.5 M6
500	38	72	75A 100mA 0.1sec以下	5.5 M6
560	38	65	75A 100mA 0.1sec以下	5.5 M6
615	38	61	75A 100mA 0.1sec以下	5.5 M6
670	38	58	100A 100mA 0.1sec以下	5.5 M6
730	60	78	100A 100mA 0.1sec以下	8 M6
775	60	68	125A 100mA 0.1sec以下	8 M6
850	100	97	125A 100mA 0.1sec以下	8 M6

*1 計算上はM6ですが、ユニット付属のアースネジサイズに合わせています。

*2 組み合わせ専用450を個別電源取りする場合(850の場合のみ)

お願い

- (ア) 配線要領は内線規程(JEAC8001)に基づいて決められています。
- (イ) 表中のこう長・配線太さは、電圧降下を2%以内とした場合のこう長・配線太さを示します。
- (ウ) 配線こう長が左表の値を超える場合は、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- (エ) 清掃しゃ断器は地絡保護専用の場合、別途配線用しゃ断器の設置が必要となります。配線用しゃ断器の選定については技術資料を参照いただくか、代理店又は弊社へお問い合わせください。

(4)室内機電源仕様：単相200V～又は三相200V 3～50/60Hz電源

室内機 合計電流 (A)	配線太さ (mm ²)	配線ご長 さ(m)	配線用しゃ断器 (地絡・過負荷・短絡保護兼用)
7A以下	2	21	20A 30mA 0.1sec以下
11A以下	3.5	21	20A 30mA 0.1sec以下
12A以下	5.5	33	20A 30mA 0.1sec以下
16A以下	5.5	24	30A 30mA 0.1sec以下

お願い

- (ア) 左表は標準仕様を示します。電源は単相200Vまたは三相200Vを準備ください。
- (イ) 表中のこう長は、室内機を直列に接続した場合の値を示します。また、室内機合計電流別に、電圧降下を2%以内とした場合の配線太さとこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- (ウ) 室内機への接続線は3.5mm²まで可可能です。5.5mm²以上は専用ブルボックスを使用し、室内機×3.5mm²以下で分岐してください。
- (エ) 左表は電気ヒータ(別売)を含まずに記載しています。電気ヒータを組み込む場合は、電源仕様、配線仕様が異なりますので、ご注意ください。
- (オ) 室内機端子台の③端子は別売の補助ヒータ使用時の接続(ヒータ用電源)してください。

6-3. 信号線接続要領

本機では旧通信方式であるスパーリング(以下「旧SL」と表記します)とスパーリングⅡ(以下「SLⅡ」と表記します)の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ以下の特徴・制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機・室内機・集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧SLでの通信を選択してください。

通信方式	スパーリング(旧SL)	スパーリングⅡ(SLⅡ)
室外機の設定(SW5-5)	ON	OFF(出荷時設定)
同一ネットワーク内の室内機台数	最大48台	最大128台
同一ネットワーク内の室外機台数	最大48台	最大32台
信号線(合計長さ)	1000mまで	シールド線以外を使用する場合は2000mまで シールド線(MVVS) 0.75mm ² を使用する場合は1500mまで シールド線(MVVS) 1.25mm ² を使用する場合は1000mまで
(最長長さ)	1000mまで	1000mまで
ネットワークに接続可能な機器	SLⅡ未対応機(FDOP00002LXシリーズ) SLⅡ対応機(FDOP0003LXシリーズ) (FDOP0004LXシリーズ)	SLⅡ対応機(FDOP0003LXシリーズ) (FDOP0004LXシリーズ)
注: FDT224.280形は室内機1台につき通信上は2台分として台数計算してください。		

●信号線はDC5Vですので絶対に200Vの配線を接続しないでください。基板上の保護ヒューズが動作します。

①信号線に200Vが印加されないようになっていることを確認してください。

②電源投入前に信号端子台抵抗をご確認ください。信号端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号端子台に接続している可能性があります。

3型以降のユニットだけが接続されている場合

抵抗値の目安=5100 [接続台数]

2型以前のユニットだけが接続されている場合

抵抗値の目安=9200 [接続台数]

3型以降と2型以前のユニットが混在して接続されている場合

抵抗値の目安=46000 [(2型以前の接続台数×5)+(3型以降の接続台数×9)] です。

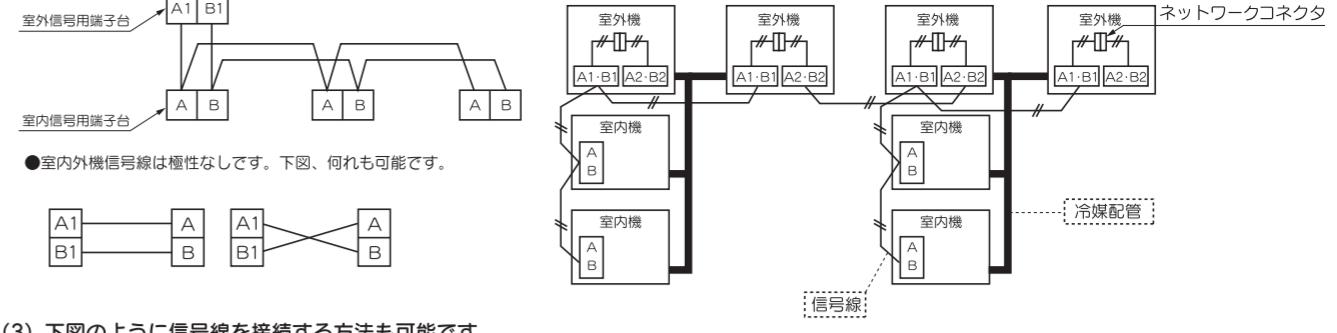
接続台数には室内機・室外機・機器を含みます。

抵抗値が100Ω以下になる場合は同一ネットワーク上の室内機台数を減らすため、一時的に信号線を外して複数のネットワークに分離し、個別に確認してください。

室内・室外信号線

●A1・B1に室内・室外機間信号線をつないでください。 ●A2・B2に室外機間信号線をつないでください。

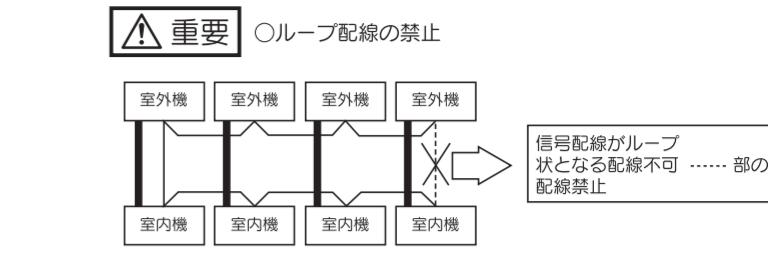
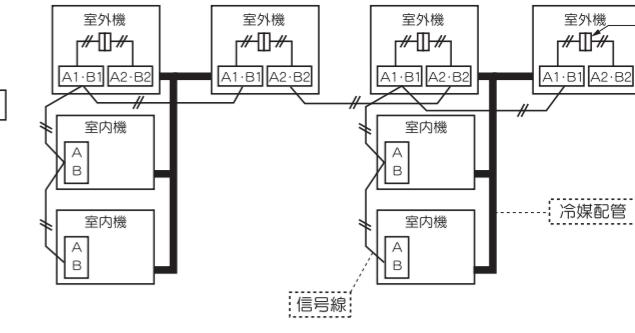
(1)室外機1台の場合



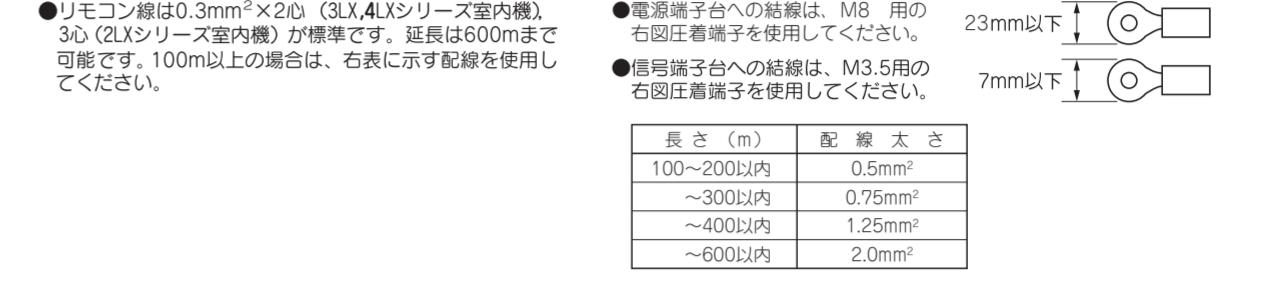
●屋内外機信号線は恒性なしです。下図、何れも可能です。



(2)室外機複数台の場合



(3)下図のように信号線を接続する方法も可能です。



○重要 ○ループ配線の禁止

長さ(m)	配線太さ
100~200以内	0.5mm ²
~300以内	0.75mm ²
~400以内	1.25mm ²
~600以内	2.0mm ²

ご注意

室内・外ユニット間の誤配線以外に、以下の誤配線があります。ご注意ください。

①信号線とリモコン線の誤配線

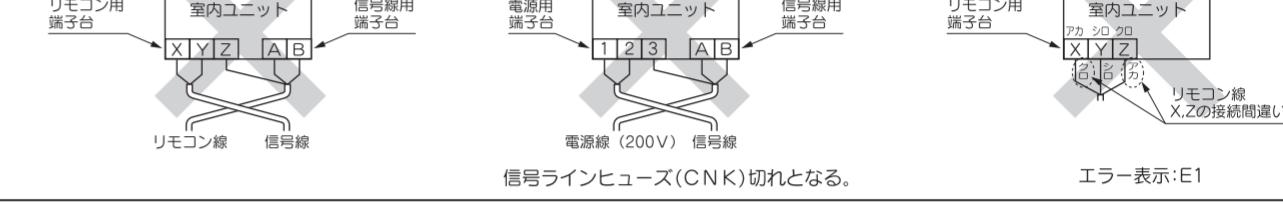
リモコン用端子台

②信号端子台への電源線接続

電源用端子台

③リモコン線の誤配線

リモコン用端子台



信号ラインヒューズ(CNK)切れとなる。

エラー表示:E1

7. コントローラーの設定

7-1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方で行ってください。室外→室内の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。

本機では旧通信方式であるスパーリング(旧SL)とスパーリングⅡ(SLⅡ)の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の表の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機・室内機・集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であっても旧SLでの通信を選択してください。

アドレス設定後通信ができるようになったら室外機セグで通信方式を確認してください。

●アドレス設定の種類

アドレス設定方法は下記の方法があります。自動アドレスは従来と手法が異なります。本説明書をよく読んでご使用願います。

通信方法	アドレス方法	SLⅡ	旧SL
複数の冷媒系統を信号線で接続する場合 (例えば集中制御を行う場合)	ケース1 複数の冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合 (ネットワークコネクタを外した際に各冷媒系統が1系統ずつに分離される状態)	OK*1	OK
複数の冷媒系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合	ケース2 OK	OK	OK

冷媒系統が1系統の場合 (信号線が冷媒系統をまたがない場合)

*1 A1・B1に室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース3)

A2・B2に屋内外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース4)

*2 (ケース2)の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。

14

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。
※同一ネットワーク内にSLⅡ未対応機がある場合、SW5-5をONにして通信方式を旧SLとしてください。旧

[STEP4] (ネットワーク確定設定)

⑨ネットワーク接続

各室外機（組合せの場合：親機）ごとに「AUE」表示を確認したら③で外したネットワークコネクタを接続してください。

⑩ネットワーク恒性設定

ネットワークコネクタの接続を確認後、ネットワークの恒性設定のため、**任意の室外機1台のみ(組合せの場合:親機1台のみ)**

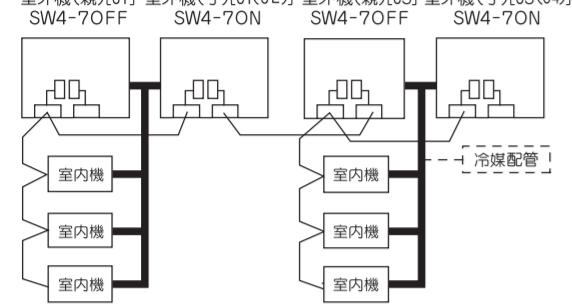
よりセグのP34で“1”を選択して確定してください。

⑪設定完了確認

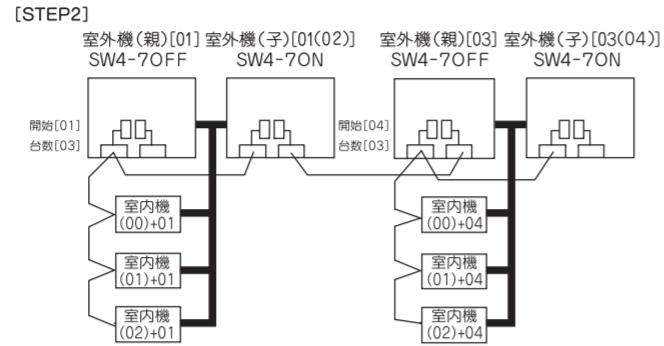
ネットワークが確定したら各室外機（組合せの場合：親機）のセグに「End」を表示します。「End」表示はセグ操作もしくは3分経過後消灯します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機 (室内/室外 No.SW)	②内000 /外 49(出荷時)	—	—	—
室外機(室外 No.SW)	①01.03(例)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑩接続(各室外機)
自動アドレス開始設定	—	—	⑥各室外機で開始設定セット	—
開始アドレス設定	—	—	⑥外01:[01](例) 外03:[04](例)	—
接続台数設定	—	—	⑦外01:[03](例) 外03:[03](例)	—
極性設定	—	—	—	⑩任意室外機からセグP34セット
セグ表示(組合せの場合: 親機)	—	⑦[AUX] (点滅)	⑧「AUE」(点滅) エラー時は「A○○」表示	⑪「End」

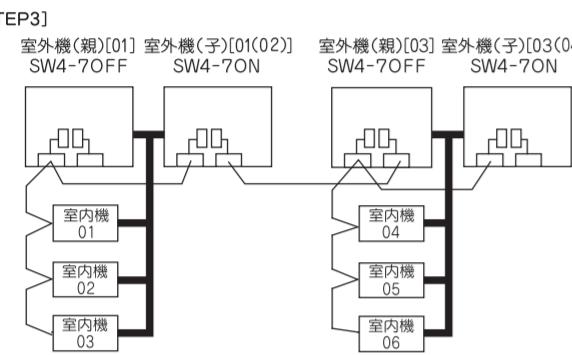
[STEP1]



[STEP2]



[STEP3]



同一冷媒系統内のアドレス設定は室外機の認識した順番に設定されますので、必ずしも図のように室外機から近い順番に付番されるわけではありません。
必ず全ての室内機の電源が入っていることを確認してください。
・設定完了後リモコンの点検スイッチを押すと確定した室内機アドレスNo.と室外機アドレスNo.が表示されます。

- 1つのリモコンで複数台制御する場合でも自動アドレス設定は可能です。
- 一度登録したアドレスは電源を切ってもマイコンに記憶されています。
- 自動アドレスアドレスを変更したい場合は、リモコンで行う「アドレス変更」もしくは室内機アドレススイッチで行う「手動設定」により変更が可能です。
- 変更する場合はネットワーク上の他のアドレスNo.と重複しないように設定してください。
- 自動アドレスが終了するまでは集中制御機器の電源は投入しないでください。
- アドレス設定後は必ず試運転を実施し、全ての室内機、室外機が正常に運転できることを確認し各室内機のアドレスを確認してください。

アドレス変更 (SL IIのみ可能)

「アドレス変更」とは「自動アドレス設定」で既に設定した室内ユニットアドレスをリモコンで変更したい場合に使用します。

従ってリモコンによるアドレス変更ができる条件は次の通りとなります。

室内機アドレス設定	室外機アドレス設定		
	室内No.SW	室外No.SW	室外No.SW
1冷媒系統自動アドレス	000	49	49
複数冷媒系統自動アドレス	000	49	00~31

この条件以外のアドレス設定の場合に「アドレス変更▼」を選択した時点でリモコンに下記表示を3回間ります。

ドット液晶表示：「操作無効です」 (3秒間点灯)

操作手順

ecoタッチリモコンを接続の場合には、リモコンに同梱しております据付工事説明書の据付設定をご覧ください。

(1) リモコンに接続している室内機が1台の場合

項目	操作	表示
1 アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	②◆を押す毎に表示が切り替わります。	「アドレス変更▼」 ⇒「親室内アドレス▲」
	③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。 これでアドレス変更モードとなり現在の設定アドレスを表示し、室内No.設定表示となります。	「内 001 外 01」(1秒) →「室内No.設定◆」(1秒) →「内 001 ◆」(点滅)
2 新室内No.の設定	④◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇒「内 001 ◆」 ⇒「内 002 ◆」 ⇒... ⇒「内 127▼」
	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内アドレスNo.を確定します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No.設定◆」(1秒) →「外 01 ◆」(点滅)
3 新室外No.の設定	⑥確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。 初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No.設定◆」(1秒) →「外 01 ◆」(点滅)
	⑦◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇒「外 01 ◆」 ⇒「外 02 ◆」 ⇒... ⇒「内 31▼」
4 アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します	⑧アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します	「内002 外02」(2秒点灯) →「設定完了」(2秒点灯) →停止状態に戻る

(2) リモコンに接続している室内機が複数台の場合

接続している室内機が複数台の場合は配線はそのまま今までのアドレスを変更することができます。

項目	操作	表示
1 アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	②◆を押す毎に表示が切り替わります。	「アドレス変更▼」 ⇒「親室内アドレス▲」
	③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。 リモコンに接続している室内機のうち最も若い番号を表示します。	「室内ユニット選択」(1秒) →「内 001 外 01▲」(点滅)
2 変更する室内機の選択	④◆スイッチによりリモコンに接続している室内機と、それに接続している室外機の番号が順に表示されます。	「内001外 01▲」 ⇒「内002外 01▲」 ⇒「内003外 01▲」 ⇒... ⇒「内016外 01▼」
	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。変更する室内機アドレスNo.を確定し、室内No.設定表示となります。	「室内No.設定◆」(1秒) →「内 001 ◆」(点滅)
3 新室内No.の設定	⑥◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇒「内 001 ◆」 ⇒「内 002 ◆」 ⇒... ⇒「内 127▼」
	⑦アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内No.を確定します。	「内 002」(2秒)
4 新室外No.の設定	⑧確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。 初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No.設定◆」(1秒) →「外 01 ◆」(点滅)
	⑨◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇒「外 01 ◆」 ⇒「外 02 ◆」 ⇒... ⇒「外 31▼」
5 終了	⑩アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します	「内002外 02」(2秒点灯) →「次設定選択◆」(1秒点灯) →「室内機選択▼」(点灯)
	⑪引き続きアドレス変更を実施したい場合 ⑫に戻ります	「◆で選択」(1秒) →「設定完了」(2~10秒点灯) →強制終了

◆スイッチは0.75秒以上押しつけることで25秒間に表示を連続して1つ切換えます。

・操作途中でセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。
・本モードの途中で、室内No.を変更しても、「室内機選択▼」で表示される室内No.は本制御に入る前に記憶している室内No.を順に表示します。
「設定完了」となった時点での室内No.が確定します。

【注意】・集中制御機器はアドレス決定後、電源を入れてください。・電源を入れる順番に並べるとアドレスを認識しない場合があります。

17

18

●自動アドレス設定時の7セグ表示

お客様で設定して頂く項目

Code	表示内容
P30	通信方式表示 0 : IDSL方式 (通信状態を表示します。設定はできません。) 1 : SL II方式
P31	自動アドレス開始入力
P32	開始アドレス入力 自動アドレス時の開始室内アドレスを指定する
P33	接続室内機台数入力 自動アドレス時の冷媒配管を接続している室内機台数を指定する
P34	極性送信 0 : ネットワークを確定しない 1 : ネットワークを確定する

アドレス設定時の表示

Code	表示内容
AUX	自動アドレス設定中 X: 室外機が認識した室内機の台数
AUE	室内機アドレス 付番 正常終了
End	極性確定 (自動アドレス) 正常終了

エラー時の表示

Code	表示内容	ここを点検して下さい
A01	実際に通信できる室内機台数がセグP33で設定した台数より少ない	信号線はゆるみなく接続されていますか。 接続室内機台数を入力し直してください。
A02	実際に通信できる室内機台数がセグP33で設定した台数より多い	信号線はゆるみなく接続されていますか。 ネットワークコネクタは外してありますか。 接続室内機台数を入力し直してください。
A03	開始アドレス(P32)+接続室内機台数(P33)>128台	開始アドレスを入力し直してください。 接続室内機台数を入力し直してください。
A04	旧SLI設定ユニットがネットワーク上に存在する時に、複数冷媒系統自動アドレス設定を行った。	手動アドレス設定を行って下さい。 旧SLI設定機をネットワークから分離してください。 全てのユニットを新SLI設定にして下さい。

異常表示

Code	表示内容	要因
E31	室外機アドレス重複	同一ネットワーク上に複数のモジュールが存在
E46	設定不良	同一ネットワーク上で自動アドレスとリモコンアドレス混在

7-2. 制御の切換

室外機の制御内容は、下記のとおり基板上のディップスイッチと7セグ上のPOOにて切換えることができます。

7セグ上のPOO切換時は、SW8(7セグ表示アップ:1位)、SW9(7セグ表示アップ:10位)及びSW10(データ書き込/決定)長押しにて設定することができます。

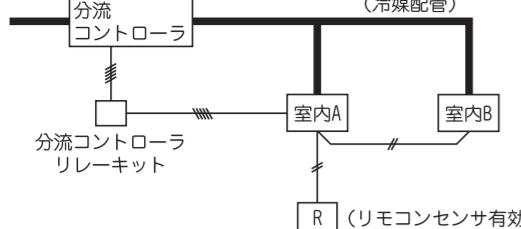
|
<th
| |

7-4. 分流コントローラ下流の室内機の設定

分流コントローラの下流に複数台の室内機を接続する場合は、下記何れかの方法により全て同一の冷／暖モードで運転するように設定してください。

(1) リモコン1台による複数室内機制御

1台のリモコンにより全ての室内機の運／停・冷／暖モード・設定温度等を同一に制御できます。



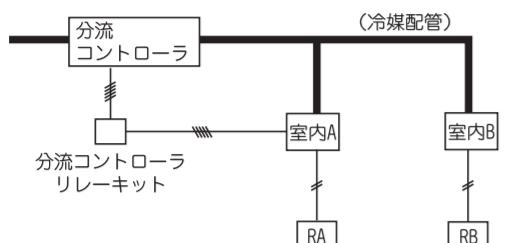
●1台のリモコンを下流の全ての室内機に接続してください。

●リモコンセンサを有効にしてください。

(2) 運転モード親子室内機制御

室内機個々に接続したりモコンにより 冷／暖モード以外 を個別に制御できます。

冷／暖モードについては分流コントローラリレーキットがつながった室内機のリモコンからのみ設定可能です。



●下流の室内機1台毎に全てリモコンを接続してください。

●下記リモコン操作により、分流コントローラリレーキットがつながっていない 全ての室内機（＝子室内機：室内B）にリレーキットがつながった 室内機（＝親室内機：室内A）のアドレスを設定してください。

●親室内機は特別な設定をする必要はありません。

項目	操作	表示
1 アドレス変更モード	①子室内機のリモコン（RB）のエアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
	②◆を押す毎に表示が切りわります。	「アドレス変更▼」 ⇒「親室内アドレス▲」
	③「親室内アドレス▲」表示のときにセットスイッチを押してください。 これでアドレスセットモードとなり、親室内No.設定表示となります。	「内…▲」(点滅)
2 新室内No.の設定	④◆スイッチにより親室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1ずつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇒「内 001◆」 ⇒「内 002◆」 ⇒「…」 ⇒「内 127▼」
	⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。親室内No.を確定します。	「内 002」(2秒点灯) →「設定完了」(2秒点灯) →停止状態に戻る

◆スイッチは0.75秒以上押しつづけることで0.25秒毎に表示を連続して1ずつ切換えます。

・操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。運転/停止スイッチを押すと本モードを終了し停止状態に戻ります。

◇注意事項

(ア) 本操作はユニット停止中のみ実施可能です。

(イ) 本制御により親室内機No.を決定した室内機のリモコンにて運転切換スイッチを押すと「操作無効です」表示を3秒間点灯し元の状態に戻ります。

(ウ) 関連異常表示

Code	要因
E11	アドレスセッテッドリモコンに2台以上の室内機を接続した場合
E18	設定した親室内No.が同一のSLネットワーク上に存在しない場合 又は予室内機として設定済みのアドレスを親室内No.として設定した場合

8. 試運転・引渡し

8-1. 運転を始める前に

(1) 電源端子台と設置面を500Vメガオーム以上であることを確認ください。

据付直後、もしくは元電源を切った状態で長時間放置した場合には、圧縮機内に冷媒が溜まることにより、電源端子と接地端子の絶縁抵抗が1MΩ近くまで低下することがあります。

絶縁抵抗が1MΩ以上ある場合は、元電源を入れてクランクケースヒーターを6時間以上通電することにより、圧縮機内の冷媒が蒸発しますので絶縁抵抗は上昇します。

(2) 電源投入前に信号端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号端子台に接続している可能性があります。6-3の抵抗値の目安を参考に配線を確認してください。

(3) 運転6時間前に必ず電源をONとし、クランクケースヒーターに通電してください。圧縮機が故障する原因となります。

クランクケースヒーター通電後、上記時間が経過するか圧縮機内部の温度が上昇しないと圧縮機が運転しない場合があります。(圧縮機保護のため) 7セグLED「DLOOOOO」と表示されています。クランクケースヒーター通電により圧縮機内部の温度が上昇してから試運転を行ってください。

(4) 圧縮機底部が暖めになっていることを確認してください。

(5) 室外機の操作弁(ガス・液)は必ず全開にしてください。閉のまま運転しますと圧縮機が故障する場合があります。

(6) 全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機電源が入っていない場合、故障の原因になります。

ご注意

試運転前に操作弁(ガス・液)の全開をチェックしてください。閉状態では圧縮機故障の原因になります。

8-2. チェック運転

試運転の前にチェック運転を行うことを推奨します。

(チェック運転を行わなくても試運転及び通常の運転は可能です。)

チェック運転の詳しい作業内容については、技術資料をご覧ください。

重要

・チェック運転は室外ユニットアドレス設定終了後かつ冷媒封入後に実施してください。

・冷媒量が適正でない場合は正確なチェックができません。

・システムが異常停止中の場合はチェック運転を行うことができません。

・室内機合計接続容量が室外機容量の80%未満の場合はチェック運転を行うことができません。

・システム通信方式が従来通信方式(IGS-L)の場合は、チェック運転を行うことができません。

・複数の冷媒系統で同時にチェック運転を行わないでください。正確なチェックができません。

・チェック運転は運転温度範囲内(外温：0~43°C、室温：10~32°C)で行ってください。適用温度範囲外では、チェック運転を開始しません。

・外気処理ユニットおよび給気処理ユニットはチェックができません。(同一冷媒系統の外気処理ユニットおよび給気処理ユニット以外の室内機についてはチェックできます)

・接続室内機が1台の時はチェックができません。

・デマンドモード、省エネモードで0%設定になっている時はチェックができません。

・ドーム下過熱度が15°Cより低い場合、保護制御によりチェック運転が動作しない場合があります。

・クランクケースヒーターをチェック運転時の6時間前に入れてください。

(1) チェック項目

チェック運転では下記について確認できます。

・操作弁が閉じたままにならないか(操作弁閉鎖チェック)(但し、組合せの場合正確に判断できるのは親・子機全て操作弁閉じたときのみです。)

・室内外ユニット間の冷媒配管・信号線が適正に接続されているか(アンマッチチェック)

・室内膨張弁が適正に動作するか(膨張弁故障チェック)

(2) チェック運転方法

(1) チェック運転の開始

・SW3-6(冷媒洗浄モード)、SW3-7(冷暖強制モード)、SW5-1(試運転)、SW5-2(試運転冷房設定)、SW5-3(ポンプダウン運転) SW5-6、7、8(テストモード)、全てがOFFであることを確認してください。

・次にSW3-5(チェック運転)をOFF→ONにすることでチェック運転を開始します。

・チェック運転を開始してから終了するまでの所要時間は通常15~30分(最長80分)です。

(1) チェック運転の終了及び結果表示

・チェック運転が終了するとシステムは自動的に停止し、7セグに結果を表示します。

<正常終了>

・7セグに“CHO End”表示が出ます。

<異常終了>

・7セグに“E”表示が出ます。

・「ここを点検してください」を参照して不適合部分を修正し、SW3-5をOFFに戻してください。

・その後再度(2)からチェック運転を行ってください。

チェック運転時の7セグ表示

コード表示	データ表示	表示内容
H1	最大残り時間	チェック運転準備運転中。最大残り時間(分)を表示する。
H2	最大残り時間	チェック運転中。最大残り時間(分)を表示する。
CHO	End	チェック運転正常終了。

8-4. 引き渡し

●据付、試運転完了後、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この取扱説明書は取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。

●本時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないようにご指導ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。(クランクケースヒーターにより圧縮機底部が暖められているためシーズンインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)

JRA GL-14 「冷凍空調機器の冷媒漏えい防止ガイドライン」に基づく漏えい点検記録簿の管理と定期的な冷媒漏えい点検のお願い

設置が完了したら、漏えい点検記録簿を作成し所有者に保管の義務を説明してください。

漏えい点検記録簿に漏えい点検記録簿による定期的な冷媒漏えい点検をお願いします。本製品の引渡しの際には、本製品の設置工事をされた工事業者様より「漏えい点検記録簿」を受け取り、記載内容の確認と記録簿の管理(管理委託を含む)をお願い致します。なお、詳細は下記のサイトをご覧ください。

●本製品を所有されているお客様へ

製品の性能を維持していくために、また、冷媒フロン類を適切に管理していくために、定期的な冷媒漏えい点検(有償)をお願い致します。

漏えい点検時には、漏えい点検資格者によって「漏えい点検記録簿」、機器を設置した時から廃棄するまでの全ての点検記録が記載されます。本製品の引渡しの際には、本製品の設置工事をされた工事業者様より「漏えい点検記録簿」を受け取り、記載内容の確認と記録簿の管理(管理委託を含む)をお願い致します。

●本製品を設置する工事業者様へ

本製品をご使用になるお客様には、製品の性能を維持していくために、また、冷媒フロン類を適切に管理していくために、上記ガイドラインに基づいた「漏えい点検記録簿」による定期的な冷媒漏えい点検をお願いしております。

本製品の据付後、所定の漏えい点検作業を行い「漏えい点検記録簿」を作成いただいた後、お客様に点検周期についてご説明いただき、取扱説明書・据付説明書と共に、お客様で保管いただくようご依頼してください。

尚、冷媒漏えい点検資格制度、「漏えい点検記録簿」の用紙については、以下の日設連ホームページをご覧ください。

JRA GL-14は、 <http://www.raia.or.jp/index.html>

フロン漏えい点検制度は、 <http://www.jarac.or.jp/roe/>

8-3. 試運転

(1) 室外機からの試運転

室外基板のSW5-1とSW5-2のスイッチにより、外部入力端子のON/OFFにかかわらず室外から試運転ができます。はじめに試運転するモード(冷房／暖房)を選びください。冷房試運転の場合はSW5-2をONに、暖房試運転の場合はSW5-2をOFFにしてください。(工場出荷時はOFFです。)

次にSW5-1をOFF→ONにすることで、接続されているすべての室内機を運転します。試運転終了後はSW5-1をOFFとしてください。

ご注意：試運転中は、室内機のリモコンからの操作(変更)はできません。(集中管理中の表示がです。)

(2) 室内側からの冷房試運転方法。リモコンを次の手順で操作してください。

(ア)冷房試運転の開始

① [運転／停止] ボタンを押して運転します。

② [運転切替] ボタンにより「冷房」を選択します。

③ [試運転] ボタンを3秒以上押します。「項目◆で選択」→「[セット]」で決定」→「冷房試運転▼」と表示が切り換ります。

④ 「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。

(イ)冷房試運転解除

⑤ [運転／停止] ボタンまたは、温度設定 [▲] [▼] ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。「冷房試運転」表示が消灯します。

ご注意：配管工事者の方へ、または電気工事者の方へ

試運転終了後、お客様へお引渡しの